

## カウンセリング心理士養成カリキュラム

### I 一般会員対象 [合計 210 時間 (14 単位) 以上]

ここに挙げた時間数(単位数)は本学会が各地で行なっている「カウンセリング研修会」や大学学部などで取得した単位である。教育委員会や民間機関などにおけるカウンセリング研修は、資格認定委員会で講師・研修時間・研修内容などを検討の上、適切な場合には振替を認めることとする。

※印の科目(内容)は必修科目である。ただし、研修内容が各領域の内容に合致していれば科目名は異なっても差し支えない。※印以外の科目(内容)は、ここに挙げられている科目(内容)以外でも、A～Eの各領域に含まれるものであれば認められる。

### A カウンセリング心理学 [45 時間 (3 単位)]

①～⑤は必修。

(1) 研修科目(例)

※① カウンセリングの理論と実際	20 時間
※② 来談者中心のアプローチ	2.5 時間
※③ 認知行動的アプローチ	2.5 時間
※④ 精神分析的アプローチ	2.5 時間
※⑤ システムズ・アプローチ (家族カウンセリング)	2.5 時間
⑥ 現代のカウンセリング理論・技法	15 時間

(2) 研修内容

①「カウンセリングの理論と実際」には、次の内容を含むこと。

#### ・カウンセリングの理念と歴史

カウンセリングの誕生と発展の歴史を知り、理念を身につける。

#### ・カウンセラーの社会的責任・倫理

カウンセリングに携わる者としての責任や倫理を知り、身につけることに留まらず、カウンセラーとしての人間観、職業観を確立し、絶えず自己研鑽する機会の必要性を理解する。カウンセラーとなるのに必要な自己の動機を検討し、常に自らのアイデンティティの形成に努める。

#### ・カウンセラーの職務と関連領域

各領域の職務を理解するのに留まらず、カウンセラーとは何をなすもので、何のためにカウンセリングを用いるのか、自身はどのようなカウンセラーであるべきかの吟味を含む。また、各領域で協働する他職種を理解し、連携のあり方について、社会的責任や倫理の観点から考察する機会があるのが望ましい。

#### ・カウンセリングプロセスの理論と実際

カウンセリングの開始から終結までのカウンセリングプロセスの理論を理解した上で、各段階での留意点を分かるために適宜ロールプレイングなどを用いながら、カウンセリングプロセスの実際について触れる。

#### ・グループ的アプローチ

「集団力学」「集団カウンセリングの知識と技術」のみならず、「ファシリテーション」「リーダーシップの理論」なども含む。「グループ体験」のみならず、「ファシリテーション体験」「心理教育を行う体験」なども視野に入れる。

#### ・生涯発達理論と実際

各発達段階でどのような課題があり、発達に伴った人生全般にわたって起きる危機と、その危機の乗り越え方、さらに、ストレスにしなやかに関わるレジリアンスの育成などについて学ぶ。知識獲得だけではなく、自身のライフヒストリーを重ねるなどで、自己理解を促す機会を設ける。

#### ・キャリア・カウンセリングの理論と実際

キャリアの開発プロセスの実践に関する理論と技術を獲得し、キャリア発達やキャリア教育の全てを俯瞰する。キャリアの課題を、生涯発達の文脈の中でしっかりと扱うことを、カウンセリングの大きな専門性の一つとする。

#### ・カウンセラーのコンピテンシーとスーパービジョン

カウンセラーとして身につけるべき資質や能力を、実践的なレベルで理解し、スーパービジョンの必要性を理解する。

#### ②から⑥は、以下の内容を含む。

各立場の理論と技法を学ぶ際には、そこで修得した理論をカウンセリングの場でどのように生かすのかについての考察や、カウンセリング理論やカウンセリングプロセスとの関連で考察する機会を設け、自身が活用できるカウンセリングの一部として統合していくようにする。

#### ②～⑤は、各アプローチの主要の理論とそれに基づく基本的な技法を中心とする。

2.5 時間という限られた時間であるので、主要の理論とは、主に 20 世紀に開発された理論で、現代でも通用する理論と、そのことで開発された基本的な技法に止める。②～⑤に含まれる内容のうち、発展的諸理論や最新技法あるいは応用は⑥の中に含める。

#### ⑥「現代のカウンセリング理論・技法」は、以下の内容を含む

②～⑤に含まれる内容のうち、各アプローチの現代の発展的諸理論や技法あるいは応用も含む。また、従来の「認定カウンセラー養成カリキュラム (2017 年 3 月改訂版)」で認められていた各種カウンセリングのアプローチやその発展的諸理論や技法あるいは応用もこの中に含まれる。

上記に該当しない場合でも、日本カウンセリング学会資格委員会が「現代のカウンセリング理論・技法」であり、発展的諸理論や最新の諸理論やその技法として相応しいと認めるも

のは、これに含まれる。

なお、さまざまな現代のカウンセリングの理論・技法に触れることが望ましいので、講座の実施時間は2.5時間～5時間とする。

## B カウンセリング・アセスメント [30時間 (2単位)]

### (1) 研修科目(例)

※① 心理アセスメント概論	5時間
※② 心理アセスメントの理論と実際(ケースフォーミュレーション)	10時間
※③ 心理検査の理論と実際	5時間
※④ 発達障害アセスメント	5時間
※⑤ 精神医学・心身医学アセスメント	5時間

### (2) 研修内容

#### ① 心理アセスメント概論

心理アセスメントとは、心理検査、面接法、観察法など

#### ② 心理アセスメントの理論と実際(ケースフォーミュレーション)

インシデントプロセス法、付箋法、セブクロス法などを用いて、提示事例の限られた情報の中で当座の見立てを立て、支援に必要な心理アセスメント方法の特定、ケースフォーミュレーションなど。

#### ③ 心理検査の理論と実際

心理検査とは、心理検査の種類、発達検査、知能検査、性格検査〔質問紙法、投影法、作業検査法〕、適性検査、学習法検査、心理検査の利用法など

#### ④ 発達障害アセスメント

知的障害・知的能力障害(MR)、自閉スペクトラム症(自閉スペクトラム症候群、ASD)、極限性学習症(学習障害、LD)、注意欠如・多動症(注意欠如／多動性障害、ADHD)など

#### ⑤ 精神医学・心身医学アセスメント

精神病(統合失調性スペクトラム障害、双極性障害、抑うつ障害)、神経症(不安症)、身体症状症、心身症、小児の神経症・心身症など

## C カウンセリング研究法 [15時間 (1単位)]

### (1) 研修科目(例)

① カウンセリング研究法の理論と実際	5時間
② 量的研究の理論と実際	5時間
③ 質的研究の理論と実際	5時間

### (2) 研修内容

- ① カウンセリング研究法の理論と実際（量的研究、質的研究、面接法、観察法、実験法などの基礎など。研究倫理を含む）
- ② 量的研究の理論と実際（調査法や心理検査を活用する上で必要な心理統計の基礎知識）
- ③ 質的研究の理論と実際（事例研究などを実施する上で必要な基礎知識）

#### D カウンセリング演習〔45時間（3単位）〕

演習とは、研修会や授業などでカウンセラーになるために行う体験学習（ロールプレイングなど）をいう。

①・②は必修、各15時間以上履修すること。

（1）研修科目(例)

※① カウンセリング演習

※② グループ体験

③ 事例研究

（2）研修内容

① カウンセリング演習(基本的傾聴の技法の演習、行動変容を促す技法の演習などを含む。演習の方法では、ロールプレイング、紙上応答訓練、録音テープやビデオを用いた面接の訓練、模擬面接および面接場面の逐語録作成、分析など)

② グループ体験(ベーシック・エンカウンター・グループ、構成的グループ・エンカウンター、アサーション・トレーニング、サイコドラマ、SSTなど)

③ 事例研究（事例に関するグループでの研究協議、事例は他のメンバーが提出したものや、すでに公表されたものでもよい。事例研究を通して、事例の捉え方などを研修する。）

#### E カウンセリング実習〔60時間（4単位）〕

実習とは、カウンセリング面接やグループ体験などの実際の場面でカウンセラーやファシリテーターとして活動した体験をいう。

研修科目の①～③は選択必修。本学会が定めるスーパーバイザーや本学会が認めるスーパーバイザーから内容のあるスーパービジョンを4回以上受けること。

事例の概要とスーパーバイザーの意見書を添えて申請時に提出すること。

なお、時間数にはスーパービジョンを受けた時間だけでなく、カウンセリングやグループに関する準備・実施の時間を含む。4回分を提出すれば60時間実施したとみなされる。

（1）研修科目(例)

① スーパービジョン

② グループ・スーパービジョン

③ カウンセリング実習

(2) 研修内容

- ① スーパービジョン（本学会のスーパーバイザーによる、カウンセリング面接やカウンセリング活動に関する個別スーパービジョン）
- ② グループ・スーパービジョン（本学会のスーパーバイザーによるグループ・スーパービジョンへの事例提供）
- ③ カウンセリング実習（各種の相談所や学校の相談室などで実習を行い、本学会のスーパーバイザーによるスーパービジョンを受けたもの。または、本学会大会で事例を報告し、スーパービジョンを受けたもの。）

F カウンセリング諸領域〔15時間（1単位）〕

①～⑥は選択必修。

(1) 研修科目(例)（公認心理師科目にも対応）

- ①保健医療分野のカウンセリング
- ②福祉分野のカウンセリング
- ③教育分野のカウンセリング
- ④司法・犯罪分野のカウンセリング
- ⑤産業・労働分野のカウンセリング
- ⑥コミュニティ・カウンセリング

(2) 研修内容

各専門分野に関するカウンセリングの理論や技法に関するものを理解するのに留まらず、カウンセラーとは何をなすもので、何のためにカウンセリングを用いるのか、自身はどのようなカウンセラーであるべきかの吟味を含む。

## II 心理学系大学院(修士課程)在籍者・修了者対象 (合計 14 単位:240 時間以上)

ここに挙げた単位は、心理学系およびその周辺領域の大学院(修士課程)において取得した単位である。なお、大学院は教育学系など心理学の周辺領域に関する専攻も含まれるものとする。

講義科目名は例として挙げたものであり、ここに挙げた科目名と一致していない場合にも、講義内容が各領域の内容にふさわしいと判断された場合には単位が認められる。その場合にはシラバスによる確認が必要になる。

講義・演習の単位数と時間数は、1週1回2時間(1コマ90分)の授業15回を2単位とする。実習は1週1回4時間(2コマ180分)の授業15回を2単位として計算する。

### A カウンセリング心理学 (3 単位 : 45 時間) …必修

#### (1) 講義科目名(例)

- ① カウンセリング心理学特論
- ② 臨床心理学特論
- ③ 教育臨床学特論
- ④ 心理臨床学特論
- ⑤ 教育相談特論
- ⑥ コミュニティ心理学

#### (2) 講義内容 (講義・文献講読)

カウンセリングの理論と技法、カウンセリング関係の法と倫理などについての講義・協議・文献講読。

### B カウンセリング・アセスメント (2 単位 : 30 時間) …必修

#### (1) 講義科目名(例)

- ① カウンセリング・アセスメント特論
- ② 心理アセスメント特論
- ③ 心理・教育アセスメント特論
- ④ 心理検査法特論
- ⑤ 臨床心理査定演習
- ⑥ 心理診断学特論
- ⑦ 発達障害アセスメント特論
- ⑧ 精神医学アセスメント特論
- ⑨ 心身医学アセスメント特論

⑩ 対人関係アセスメント特論

(2) 講義内容（講義・演習・実習）

次のような内容に関する講義・演習・実習

- ・カウンセリング・アセスメント
- ・心理検査演習
- ・心理アセスメント（査定）
- ・心理診断

C カウンセリング研究法（1単位：15時間）…必修

(1) 講義科目名(例)

- ① 心理学研究法
- ② 心理・教育統計法特論
- ③ 心理学実践研究法
- ④ 事例研究法

上記のほか、カウンセリング・アセスメント関連科目でもカウンセリングや心理学の研究法を含むものも研究法として認める。

(2) 講義内容（講義・演習・実習）

次のような内容に関する講義・演習・実習

- ・心理学、カウンセリング研究法
- ・量的研究、心理・教育統計
- ・質的研究、事例研究法

D カウンセリング演習（4単位：60時間）…必修

個人に対するカウンセリング面接の演習を中心とするが、グループ・カウンセリングやグループ体験学習など集団に対するアプローチを含むことが望ましい。

(1) 講義科目名(例)

- ① カウンセリング演習
- ② カウンセリング基礎実習
- ③ 臨床心理演習
- ④ 臨床心理基礎実習
- ⑤ グループ体験
- ⑥ 事例研究

(2) 講義内容(演習・協議・講義)

①～④は、ロールプレイング、紙上応答訓練、録音テープやビデオを用いたカウンセリング

面接の訓練、面接場面の逐語録の分析など。

⑤の「グループ体験」は、ベーシック・エンカウンター・グループ、構成的グループ・エンカウンター、アサーション・トレーニング、サイコドラマ、SSTなどへの参加。

⑥の「事例研究」は、事例に関するグループでの研究協議、事例は他のメンバーのものやすでに公表されたものでもよい。事例研究を通して事例の捉え方などを研修する。

#### E カウンセリング実習（2単位：60時間以上）…必修

個人に対するカウンセリング面接だけでなく、グループ・カウンセリングや構成的グループ・エンカウンターなど集団に対するアプローチを含むことが望ましい。

(1) 講義科目名(例)

- ① カウンセリング実習
- ② 臨床心理実習

(2) 講義内容(実習)

次のような相談機関で、実際に相談を担当しスーパービジョンを受ける

- ・大学に付属する教育相談施設、心理相談室、心理臨床センターなど
- ・学外の専門機関（教育センター、児童相談所、医療機関の心理相談室、中・高等学校の相談室など）

#### F カウンセリング諸領域（2単位：30時間）…選択必修

各専門領域の中から1科目（2単位）以上を選択し履修すること。

(1) 講義科目名(例)（公認心理士科目に対応）

- ① 保健医療分野のカウンセリング特論
- ② 福祉分野のカウンセリング特論
- ③ 教育分野のカウンセリング特論
- ④ 司法・犯罪分野のカウンセリング特論
- ⑤ 産業・労働分野のカウンセリング特論
- ⑥ コミュニティ・カウンセリング特論

(2) 講義内容(講義)

各専門カウンセリング領域の理論と実際に関するもの



### Ⅲ 公認心理師資格取得者（カウンセリング心理士資格第二方式）

公認心理師資格を取得している者は日本カウンセリング学会への入会を条件に、カウンセリング心理士養成カリキュラムを修得したものと見なすことができ、資格認定試験に合格した場合にカウンセリング心理士となることができる。

#### 注）資格試験の移行措置について

資格試験は、当面、認定カウンセラー資格認定養成カリキュラム修了者用の問題とする。カウンセリング心理士養成カリキュラム内容の周知が一定程度なされた段階で、3年程度の移行経過期間を設ける。移行期間では、認定カウンセラー資格修了者資格認定用の問題とカウンセリング心理士養成カリキュラム修了者資格認定用の問題とに分け、選択問題として出題される。なお、公認心理師取得者は、移行措置期間から、カウンセリング心理士修了者用の選択問題のみを解答することとする。移行期間終了後は、カウンセリング心理士養成カリキュラム修了者用の資格認定試験問題に移行する。